食育だより

那須中学校　文責：栄養教諭　岩瀬　幸

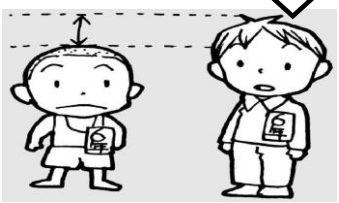
1月24日～30日は「全国学校給食週間」です。

毎日当たり前のように食べている学校給食には長い歴史があります。今月号はその歴史について考えてみましょう。

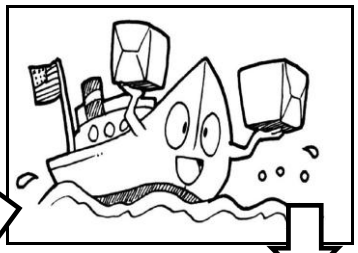
全国学校給食週間の初日の1月24日は「学校給食記念日」です。

①明治22年（1989年）に、山形県にあった忠愛小学校で、貧しい子供たちに昼食を用意したのが、学校給食の始まりと言われています。

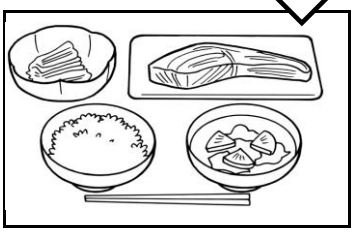
①昭和20年、終戦後、日本は、深刻な食糧不足により、みんなお腹を空かせていました。



②食料不足のため、終戦当時の小学校6年生の身長や体重は、現在の小学校4年生くらいしかありませんでした。



③当時の日本の子供たちの健康を守るため、LARA(アメリカのキリスト教団体や労働団体などの民間団体※)が食料などの支援を開始しました。【※この団体の中心にいた在米日系人の方々が「祖国を救いたい」と尽力した背景があります】

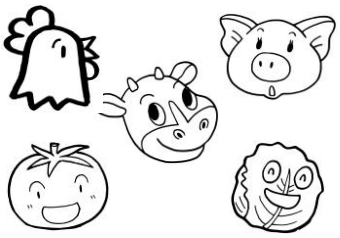


④昭和21年12月24日から、東京・神奈川・千葉で試験的に学校給食が再開されました。

⑤現在12月24日は多くの学校が冬休みです。そこで1か月遅らせた1月24日を「学校給食記念日」としました。

学校給食が再開された(昭和21年当時)は、子供たちの栄養補給が大切な役割でしたが、80年以上たった今では、栄養補給にとどまらず、地域の特産物を使った地産地消や伝統的な和食文化を伝える役割も担っています。また、心と社会性を育む大切な時間にもなっています。

学校では、この全国学校給食週間において、学校給食の長い歴史をふりかえり、その役割や意味を見直す機会にしたいと考えています。御家庭でも話題にしていただけると幸いです。

学校給食は、食材の生産者の方々や調理員さんなどが心をこめてつくったものであることや、私たち人間の命を営むために動植物の命をいただいていることを、忘れずにいたいものです。普段から、感謝の気持ちをもって食べることを心がけましょう。

農業や漁業にたずさわる方々	食材を納入してくれる業者の方々	給食を作ってくれる調理員さん	大切な命